

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年7月10日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本学部(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2024年6月29日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	イギリス
留学先大学	イースト・アングリア大学(日本語名) University of East Anglia(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2023年8月～2023年6月
留学先大学で在籍した学年	特定の学年ナン年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): 国際開発 (現地言語での名称): international development <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月中旬～12 月中旬 2 学期: 1 月下旬～5 月中旬 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	16,872
創立年	1963

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (£ポンド)	日本円	備考
授業料	2850	513,000 円	大学の授業料は無償でしたが、Pre sessional English course の授業料はかかりました
宿舍費	7900+1221	1,641,780 円	
食費	1650	297,000 円	食費・娯楽費すべて込みの仕送りを毎月 7 万円 Revolut で送ってもらっていました。
図書費	75	13,500 円	pre sessional english 用
学用品費		円	
携帯・インターネット費	60	10,800 円	lebara の SIM で月 5 ポンドで 5 ギガバイト
現地交通費	200	36,000 円	city centre まで往復 4 ポンド(□大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	2200	396,000 円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費	764	137,620 円	形態: 明治の海外保険
渡航旅費	1666	300,000 円	
ビザ申請費	263	47,354 円	priority にしたので高くつきました。
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	18,849	3,393,054 円	

渡航関連

渡航経路	
往路 出発地:成田空港 目的地:ヒースロー空港 経由地:ドーハ空港	
復路 出発地:スタンステッド空港 目的地:羽田空港 経由地:ドバイ空港	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:カタール航空 料金:約 16 万円 復路 航空会社:エミレーツ航空 料金:約 14 万円	∴合計:約 30 万円
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:skyscannar)	
<input type="checkbox"/> その他()	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:Barton House)	<input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)	
3)共有部分	
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
大学からの accommodation に関するメールと案内を受け取り次第、申し込むことができます。部屋の種類や写真は大学のウェブサイトからも事前に関覧できるので、早めに候補を絞って降りてなるべく早く申し込むことをお勧めします。	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
寮は一年間自分の家となる場所なので、本当に真剣に選んだ方がいいです。私は多少高くても、設備の充実具合やシャワールームの綺麗さを優先して一番新しく高い寮を選びましたが、後悔していません。フラットメイトに関しては、一年過ごした印象としては、Barton/Hickling はイギリス人が多く、その他の寮は留学生と現地生が半分半分くらいで、INTO はイギリス人が全くいないという感じです。ぜひ参考にしてください。	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所: UEA medical centre)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等: accommodation office, security)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

Norwich 市内でなにか犯罪に巻き込まれることは一度もありませんでしたが、旅行中のスリ対策はしていました。また、自分の管理不足でもあるのですが、友達のフラットキッチンにインスタントカメラを置いていったままにして、そのあと見つからず紛失・盗難ということになってしまったので、私物の管理はちゃんとした方がいいです。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮の WIFI は時々接続が悪くなるのですが、そこまで不便ではなかったです。街はバスに乗っている時などで場所によっては圏外になります。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本的には持っていた VISA のクレジットカード二枚と、現地で Paypay のように使われている Revolut を使用していました。Revolut は為替手数料も基本的にかからず、送金も簡単であり、ヴァーチャルのカードをすぐ発行できるため、親からの仕送りは Revolut を使用し、友達とのお金のやり取りもバンク送金などもできるため便利に使っていました。大きい出費などは家族で使うクレジットカードを使っていました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

調味料、日本食、利便性の高い衣類などは買えますが、高いです。薬も飲みなれたものを使った方がいいと思いますが、私は持ってくるのを忘れたのでイギリスの薬をかなり使いました。結構効き目が強い印象です。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
120 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Big questions for people and planet	
科目設置学部・研究科	international development
履修期間	fall semester
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回のレクチャーと隔週のセミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 110 分が 1 回
担当教授	
授業内容	3 人の異なる教授が開発学に関して異なる観点から講義をしていました。
試験・課題など	過去の授業内容から疑問点を考える課題が計 3 回と、1800words のエッセイが学期末にありました。
感想を自由記入	開発学の大枠を捉えることができる興味深い授業でしたが、個人的には専門性や具体性が低く、理解に苦労した授業でした。DEV の 1 年生の必修科目なので、フラットメイトとその友達と一緒に受講し、顔見知りが増えたのは良かったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Perspectives on global justice	
科目設置学部・研究科	international development
履修期間	fall semester
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回のレクチャーと隔週のセミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が1回
担当教授	
授業内容	民主主義や社会主義を始めとする世界を捉えるために重要なイデオロギーや歴史を学ぶ授業。
試験・課題など	過去の授業内容に関する短めのエッセイを4回分提出しました。
感想を自由記入	開発学や世界を捉えるうえで重要なイデオロギーについて学んだことが面白かったです。こちらでもDEVの1年生の必修科目なので顔見知りが多い授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Migration and development	
科目設置学部・研究科	international development
履修期間	fall semester
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回のレクチャーと隔週のセミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が1回
担当教授	
授業内容	移民や難民に関する世界の状況や各国の対応、課題、これまでの成果などを講義とセミナーを通して学びました。
試験・課題など	学期末に3000wordsのレポートを作成しました。
感想を自由記入	日本ではあまりなじみがない移民政策や問題がイギリスやヨーロッパでは政治を考えるうえでも重要な問題であるためより慎重に扱われており、その態度の違いや自分の知識の浅さを知る機会になりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
People and culture	
科目設置学部・研究科	international development
履修期間	spring semester
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回のレクチャーとそのあとスクリーニング(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が2回
担当教授	
授業内容	人類学と開発学を専門とした授業で、アフリカを主に民族学やエスノグラフィーな研究方法などについて学びました。
試験・課題など	学期末にエッセイと授業のサマリーを500words×4つ作成しました。
感想を自由記入	いままで人類学や民俗学に興味を持ったことはあまりなかったのですが、儀式や習慣、不幸への意味付けといった自分たちの生活でも無意識的に行っていた関連性のあるトピックが多く、非常に面白かったです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Concervation, conflict and environmental justice	
科目設置学部・研究科	international development
履修期間	spring semester
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回のレクチャーと隔週のセミナー、計2回のフィールドワーク(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が1回
担当教授	
授業内容	環境と開発学の関連性や持続性についての授業。生物多様性、環境保全、海洋森林保護、さらにその地域民族社会・文化の継続と保護といった、環境開発学を多面的に捉え考える非常にプラクティカルな授業でした。
試験・課題など	2000wordsのエッセイと学期末試験がありました。
感想を自由記入	環境に関する講義で、興味のない人には少しつまらないと思ってしまう授業かもしれませんが、開発学を学ぶ上で重要なSDGsや国際生物多様性達成目標などの知識と重要な視点を学ぶことができる興味深い授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Ethnographic methods			
科目設置学部・研究科	international development		
履修期間	spring semester		
単位数	20		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	フィールドワークなどを含む講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に180分が1回		
担当教授			
授業内容	人類学などで使用される Ethnographic Method を実際にリサーチテーマを決めて研究し、最終的に発表、エッセイにまとめる授業。授業内では主にインタビューの仕方やいかに Ethnographic なリサーチをできるかどうかの方法や手段について学びました。		
試験・課題など	学期を通して決めたトピックについてインタビューやリサーチを行い、最後は一人当たり 10 分のプレゼンテーションと 3000words のエッセイに研究結果をまとめます。		
感想を自由記入	一番実践的で苦勞した授業です。例年どうかは分からないのですが私の時は留学生が全体的に多く、自力でインタビューしたり、プレゼンにまとめるのは非常に大変ですが、コースメイトと協力しながら取り組むこともできるのでやりがいのある授業になると思います。私はイギリス人から見た留学生や外国人への関心、印象について調べたので、見ず知らずのネイティブスピーカーのイギリス人へ話しかけてインタビューをしたのは非常に印象深い経験になりました。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

留学中にインターンや就活を始めましたが、結局両立はかなり難しく、そもそも日本で就職したいのかどうかも分からなくなり、結局今は就活しつつ、イギリスの大学院進学も考えています。もともと院進は一切考えておらず、帰ったら就活をするんだろうなあと漠然と考えていましたが、留学中に少し考えが変わり、今はかなり悩んでいるので未定です。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	フィリピン留学、TOEFL・IELTS 受験
	10月～12月	選考
留学開始年	1月～3月	
	4月～7月	出願校から Offer letter を受け取る、Visa など留学準備開始
	8月～9月	留学開始(八月は Pre sessional、九月から授業開始でした)
	10月～12月	秋学期、12-1月で冬休み
留学/帰国年	1月～3月	1月末から春学期
	4月～7月	4月にイースター休み、五月末に学期末、六月末帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

もともと大学生のうちに1年留学をしたいと考えており、まずは英語力を上げるために自費でフィリピンに短期留学を下が大学一年の夏でした。そのとき、はじめて途上国の現状というものを目の当たりにし、自分にできることはないか、もっと深い勉強ができないかと考えるようになりました。そして帰国後、協定校候補の中で国際開発学に強いイーストアングリア大学と出会い、絶対にこの大学で勉強したいと思うようになりました。

完全に自分の学びたいこと基準で留学先を選んだため、イギリスのカルチャーも伝統も正直全く興味がなく、初めは恥ずかしながらイギリス英語とアメリカ英語の区別すらつきませんでした。ですが今や周りからもかなりイギリス英語になったねと言われるし、イギリス英語の大ファンです。

留学生活は本当に濃くて、一年間でいったい何人の人間と関わったのだろうというくらい人との出会いに恵まれたと思っています。コースメイトやフラットメイトだけでなく、Society で仲良くなったり、友達の友達として仲良くなったり、クラブでよく遭遇する友達だったり、ほぼ毎日 Hangout する友達だったり、本当に様々でしたが、帰国後も連絡を取り、絶対将来会いたいと思える友人がたくさんできました。年齢層も様々で、自分より年下で Foundation をしている友達もいれば、自国ですでに Bachelor を卒業し、Master や PhD を取るために来た年上の博識な友人もいたし、毎週土曜日に行われていた Japanese English Language Exchange では日本語を勉強したいイギリス人が学生から大人まで参加しており、本当に様々な人がいて、毎週参加するのが楽しみになっていました。そこで出会ったアメリカ人夫婦が子供の Babysitter をしてほしいと言ってくださり、アルバイトのようなことができたのも良い経験でした。

一年の留学で、自分のことをもっと知ることができたなと思っています。生活リズムだったり、人間関係だったり、自分が勉強したいことだったり、環境や周りの人々が変わったことで、自分の強さも弱さも含めて気づくこともたくさんあり、本当に貴重な一年だったと思っています。今はこの経験や感覚、英語力を失わないようにすることで必死です。

もし留学するか悩んでいる人は、本当にやりたいことや目的があるなら絶対にすべきだと思います。Norwich は時間の流れがゆったりしていて、かわいらしい街です。UEA は留学生に親切で、さまざまなサポートが整っています。また、日本にはあまりない特殊な学部も多いので、それも魅力だと思います。半年でも一年でも、異国で一人で暮らし、学ぶ時間はかけがえのないものになります。行って後悔することは絶対にないです。応援しています。